

：上海市 上海中医薬大学 岳陽病院
場所 「不妊症研修」
期間 ：2007.11.11～16
参加者 ：松島達也、石川真、山口昌子、趙貞華

上海中医薬大学 岳陽病院

第3回「不妊症研修」

11月11日から16日まで、上海中医薬大学
附属岳陽病院の婦人科で研修を受けてきまし
た。研修は、外来患者様の診察の様子を隣で
見させていただくと、Drから直接婦人科疾
患の講義を受けることが出来ました。

日本ではそれぞれの病院で管理されている
カルテですが、中国では患者様が自分で持っ
ており、病院にかかる際に持ってきます。病
院で自分が受けたいDrを選び、診察券の換わ

りにカルテを出して順番待ちをするのです。今までの検査結果や、治療過程も全てわかった上
で、Drも話が出来るので、双方にとってメリットが多い制度だと思いました。そのせいか患者様
もとても積極的！日本では婦人科はまだ敷居が高い部分がありますが、今回の研修では若い患者
様も多く、若いうちから自分の体ときちんと向き合っている印象を受けました。

今回外来を見させていただいた先生の中で、最も人気のあ
る王先生は、不妊症やPCO、稀発月経などを漢方中心で治
療を行い、非常に効果が高く、患者様からの信頼の厚い先生
です。朝八時から夜八時まで（通常は夕方四時までです）、
診察がぎっしりつまっていたのですが、疲れた様子も見せ
ず、私たちへの説明も行いながら、患者様に熱心に向き合



い、本当にパワフルな先生でした。とても有名な先生なのですが、偉ぶる様子は全く感じさせず、どんな患者様にも平等に患者様第一に接していらっしゃる姿勢を目の当たりにし、私もますます精進していこうという熱い気持ちになりました。

今回の研修で得た知識を、帰国後早速患者様に活かしたところ、無排卵の方に自然排卵が起こり、とても喜んでいただきました。うまくいくことばかりではないですが、漢方の深い考え方に触れ、いろいろな可能性があることがわかり、非常に有意義な研修でした。今回得た膨大な情報をよく見直し、自分のものとし、臨床に活かしてさらに多くの患者様に喜んでいただけるようになりたいと思います。貴重な機会を与えていただいた社長以下誠心堂スタッフの皆様、岳陽病院の先生がたに感謝いたします。

報告 薬剤師 山口昌子

今回はじめての中国研修を終え大変印象に残った事は中国では漢方薬が一般人の生活にとっても浸透しており、煎じ薬を服用する事が当たり前になっていることに驚かされました。

中国では日本と違い漢方薬に保険がきき西洋の治療をするよりも経済的負担が少ないようですがここまで生活の中に溶け込んでいるとは思いませんでした。五日間の研修の中で多くの事を学べたと思います。岳陽病院の漢方医の先生方の相談を間近で見ることができ、改め弁証論治の大切さを感じる事が出来ました。



婦人科は日本でも有効性が広く認められ漢方相談を受ける事も多いのですが今回研修に参加し先生方の症例を拝見させていただき漢方の有効性がとても高い事に感動しました。中国で行える治療（薬草なども）と日本で行える治療には大きな差はありますが、婦人科疾患において生理不順や不妊症などは腎を強化すること（特に補腎陽の必要性）、気血生成の源である脾を強化することが非常に重要であり、また子宮内膜症・子宮筋腫においては活血化?のサジ加減（止血と活血のバランス）がとても重要であることが分かりました。

簡単ですが今回学んできた漢方治療の考え方のポイントがここにあると思いました。今後の婦人科相談を行っていく上での参考にしていきたいと思います。

報告 薬剤師 松島達也

上海中医薬大学付属岳陽病院の婦人科で、王先生は生理痛や生理不順、不正出血などから、妊娠にとって妨げとなることもある多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)、子宮筋腫、希発月経、不育症といった疾患にも対応していました。

一口に「漢方治療」といっても、「葛根湯」というような「～湯」というお薬を選んでいくのではなく、生薬一味一味を選んでいくという、より患者様の体の状態に近づけた選び方をしていきます。その組み合わせは、治療方針の柱となっている生薬があり、それをサポートする生薬、患者様特有の情報を考慮した生薬、そしてそれらの割合が同じ疾患でも千差万別！

けれど、こうして王先生たちの処方や解説を理解していくことで、自分の中に、日本の漢方薬を「～湯は～に効く薬だから使おう」ではなく「～の方針で～といった生薬たちを使いたいから～湯を使おう」と発想していく考え方がよりいっそう深まっていくのを感じます。

今はまだ、一般に代替医療として捉えられている漢方ですが、婦人科において多くの患者様から頼りにされているのを目の当たりしました。

私自身、中医学を通して漢方を多くの人に役立てていきたいと、改めて感じた研修となりました。

報告 薬剤師 石川真

